



社会福祉法人

恩賜
財団

済生会熊本福祉センター

年報

Annual Report

2016

理念

一人ひとりを尊重し、共に生きる社会の実現をめざします。

基本方針

1. ライフステージに応じた自立を支援します。

発達の芽を育む保育園をはじめ、障害のある人は子供から成人まで、療育や就労・生活支援を通して、一人ひとりのライフステージに応じた自立を支援します。

2. 専門性と施設機能を活かし、地域社会に貢献します。

保育園、児童発達支援センター、就労移行支援や就労継続支援、生活介護、グループホーム事業、福祉相談支援など済生会熊本福祉センターの多様な施設の専門性と機能性を活かし、福祉を通じて地域における共生社会の実現に貢献します。

3. 利用者主体の福祉を実践します。

利用者の方が個々の能力を活かして自己実現が図れるよう、一人ひとりを尊重した利用者主体の福祉を実践します。



所長 道端 由美子

2016 年度は、済生会熊本福祉センターが前法人から引継ぎ、12 年となります。これもひとえに日頃より多大なるご協力、ご支援を頂いている皆様のお陰と深く感謝しています。

私は、2014 年に赴任した当初より、過去の実績を整理し振り返り、次の戦略を考えていくための年報作成を提案してきました。しかし、労力を伴う作業へは誰も手つかず状態で、作成までには至りませんでした。今回は、次の中期事業計画策定に当たって、歴史と実績を踏まえて立案する必要があること。福祉サービス第三者評価受審での指導を頂いたこと。職員からも必要性の声が上がったことで管理運営会議や運営検討会議を中心に担当者の指揮の下、予定通り進めることができました。初刊として「年報 2016 年度版」を作成することができ、とても嬉しく思います。忙しい中、編集に携わって頂いた皆様にお礼を申し上げます。

済生会熊本福祉センターは、9 つの事業所と 18 事業種があり、障害者（児）の福祉サービス事業（就労、生活介護、共同生活など）、通所支援、保育、相談、地域定着支援等多岐に渡って運営しています。

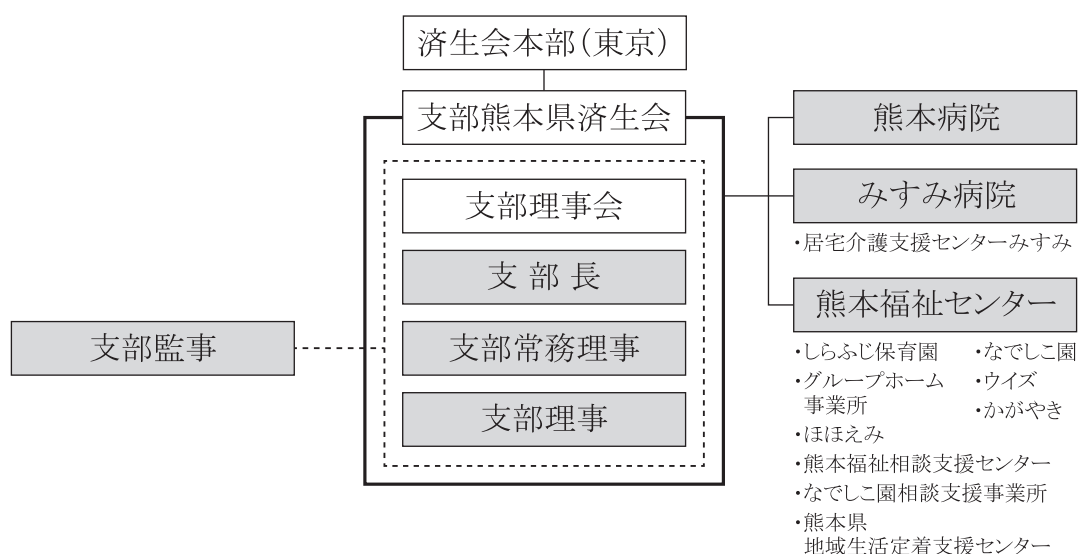
2016 年度は 4 月の地震の対応と復旧に追われた年でした。済生会の本部を中心に、DCAT（介護福祉支援チーム）の支援や全国からの支援物資を届けて頂き、大きな励ましとなりました。こうした支援により、福祉避難所や障害者施設の救援物資集積所としての活動等、社会貢献を行うことができました。また、ほとんどの事業所は短期間

の休園、または、継続して運営することができましたことに改めて感謝申し上げます。

2016 年度は、社会福祉法人制度改革による監督強化や「社会福祉施設職員等退職手当共済制度」の見直しなど、厳しい事業運営が求められました。また、2016 年 4 月に「障害者差別解消法」が施行され、障害者の権利擁護の進展が期待された年度でした。このような環境の中、福祉センターでは、管理者の人事や就業規則の見直しを行い、「意識変革」をキーワードに時代の変化に対応するためにマネジメント力を高めることに注力してきました。また、人材確保・育成を目的として、人事制度改革に取り組みました。雇用の安定化を図り、階層別研修などを開始し、キャリアアップの仕組みを再構築しました。

最後に、熊本地震という大きな災害に遭遇しましたが、それを支えてくれた多くのスタッフの努力により、利用者さんの安全、安心への支援ができたことに感謝致します。また、支部熊本県済生会を中心に熊本病院、みすみ病院をはじめ、関係機関、地域の皆様のご支援、ご理解を賜りまして、今後もより一層努力して参りますのでよろしく申し上げます。

熊本県済生会 組織図



熊本県済生会 役員名簿

1. 理事

(2017年3月31日現在)

| 氏名 | 所属 | 役職 |
|-------|-------------|---------|
| 須古 博信 | 熊本県済生会 | 支部長 |
| | 済生会熊本病院 | 名誉院長 |
| 副島 秀久 | 熊本県済生会 | 常務理事 |
| | 済生会熊本病院 | 院長 |
| 小野 友道 | 熊本保健科学大学 | 名誉教授 |
| 小林 佳之 | 社会福祉法人恵春会 | 理事長 |
| 重松 節美 | 熊本県看護連盟 | 会長 |
| 福島 英生 | 熊本県立大学 | 名誉教授 |
| 藤岡 正導 | 済生会みすみ病院 | 院長 |
| 道端由美子 | 済生会熊本福祉センター | 所長 |
| 吉村 浩平 | 瑞鷹株式会社 | 代表取締役社長 |

2. 監事

| 氏名 | 所属 | 役職 |
|-------|------------------|----|
| 浅枝 秀隆 | 浅枝公認会計士事務所 | 所長 |
| 池上 道夫 | 池上税理士・本吉公認会計士事務所 | 所長 |
| 隈部 幸一 | 税理士法人絆 | 会長 |

(50音順・敬称等略)

熊本県済生会 2016年度行事

| | |
|-----------------|---|
| 2016年4月5日 | 支部監事業務監査（各施設） 2015年度業務執行状況について |
| 2016年5月19日 | 支部監事会計監査 2015年度財務状況について |
| 2016年6月2日 | 第34回支部施設長会議 2015年度事業報告、決算報告について 他 |
| 2016年6月27日 | 第62回熊本県済生会理事会 2015年度事業報告、決算報告について 他 |
| 2016年8月4日 | 第11回無料低額診療事業報告会 |
| 2016年9月1日 | 第35回支部施設長会議 熊本県済生会諸規則等について 他 |
| 2016年9月3日 | 第20回熊本県済生会OB会（ホテル日航熊本） |
| 2016年9月12日 | 第63回熊本県済生会理事会 熊本県済生会諸規則等について 他 |
| 2016年11月1日 | 第12回無料低額診療事業報告会 |
| 2016年11月15日 | 第36回支部施設長会議 2016年度上半期進捗状況報告について 他 |
| 2016年11月29日 | 第64回熊本県済生会理事会 2016年度上半期進捗状況報告について 他 |
| 2016年12月6日 | 支部監事上半期会計監査 2016年度上半期財務状況について |
| 2016年12月13日～15日 | 監査法人トーマツ訪問調査指導 （熊本病院、みすみ病院） |
| 2017年1月10日 | 第37回支部施設長会議 2017年度事業計画、予算について 他 |
| 2017年1月24日 | 第65回熊本県済生会理事会 2017年度事業計画、予算について 他 |
| 2017年2月18日 | 第38回支部施設長会議 第66回熊本県済生会理事会 熊本県済生会の人事について 他 |

目 次

| | | |
|-----|---------------------------|---------|
| 1. | 理念、基本方針 | 1 |
| 2. | 所長挨拶 | 2 |
| 3. | 熊本県済生会 組織図、役員名簿 | 3 |
| 4. | 熊本県済生会 2016 年度行事 | 4 |
| 5. | 目次 | 5 |
| 6. | 概要・沿革 | 6-7 |
| 7. | 事業案内 | 8 |
| 8. | 職員数・資産概要・協力医療機関・嘱託医・第三者委員 | 9 |
| 9. | 組織図 | 10 |
| 10. | 会議・委員会 | 11 |
| 11. | 2016 年度事業報告 | 12-13 |
| 12. | 熊本地震の記録 | 14-18 |
| 13. | 各事業所活動報告 | 19-39 |
| | 済生会ほほえみ | (19-20) |
| | 済生会かがやき | (21-23) |
| | 済生会ウイズ | (24-26) |
| | 済生会グループホーム事業所 | (27-29) |
| | 済生会熊本福祉相談支援センター | (30-31) |
| | 熊本県地域生活定着支援センター | (32-33) |
| | 済生会しらふじ保育園 | (34-35) |
| | 済生会なでしこ園 | (36-38) |
| | 済生会なでしこ園相談支援事業所 | (39) |

概要

| | |
|----------|--|
| 法人 | 東京都港区三田一丁目4番28号 社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 济生会 総裁 秋篠宮殿下 会長 豊田 章一郎 理事長 炭谷 茂 |
| 熊本県支部 | 熊本県熊本市南区近見五丁目3番1号 社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 济生会支部熊本県济生会 支部長 須古 博信 |
| 熊本県関連施設 | 济生会熊本病院 济生会熊本病院 予防医療センター 济生会みすみ病院 |
| 熊本福祉センター | 〒861-4127 熊本県熊本市南区内田町 3560 番地 1 TEL.096-223-3330 FAX.096-223-3429 社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 济生会熊本福祉センター 所長 道端 由美子 |
| 開所 | 2004年4月1日 |

2017年3月現在

沿革

| | |
|-----------|---|
| 2004年4月 | 社会福祉法人仁愛園より事業を引き継ぎ、済生会熊本福祉センター開設（6施設） ①セルフほほえみ ②セルフかがやき ③ウイズ ④通勤寮こだま ⑤しらふじ保育園 ⑥なでしこ園 |
| 2005年6、7月 | セルフほほえみでパン工場の授産事業開始 済生会熊本病院内にて院内清掃・喫茶を設置し授産事業開始 |
| 2005年12月 | ワークステーションウイズでクリーニング工場稼働 |
| 2007年10月 | セルフほほえみ1階大規模改修工事（春雨工場→地域交流ホール等へ） |
| 2009年8月 | ワークステーションウイズ一部改修工事（葛きり工場→野菜カット工場へ） |
| 2010年3月 | 知的障害者福祉工場：ワークステーションウイズ ↓【新体系移行】 多機能型事業所：済生会ウイズ（就労継続支援A型・B型） |
| 2011年3月 | しらふじ保育園 新園舎完成 |
| 2012年2月 | 知的障害者通勤寮こだま 障害者自立支援法により廃止 こだま（通勤寮）、セルフかがやき（入所施設）をグループホーム・ケアホームへ改修工事完了 |
| 2012年3月 | 知的障害者通所授産施設：セルフほほえみ 知的障害者入所授産施設：セルフかがやき ↓【新体系移行】 多機能型事業所：済生会ほほえみ（生活介護、就労継続支援B型） 多機能型事業所：済生会かがやき（就労移行支援、就労継続支援A型・B型） |
| 2012年4月 | なでしこ園 児童福祉法改正により福祉型児童発達支援センター済生会なでしこ園へ |
| 2014年4月 | 熊本県地域生活定着支援センターを熊本県委託事業として運営開始 |
| 2015年10月 | 済生会なでしこ園 新園舎完成 |
| 2016年4月 | 済生会ウイズで給食事業開始（就労継続支援A型） |

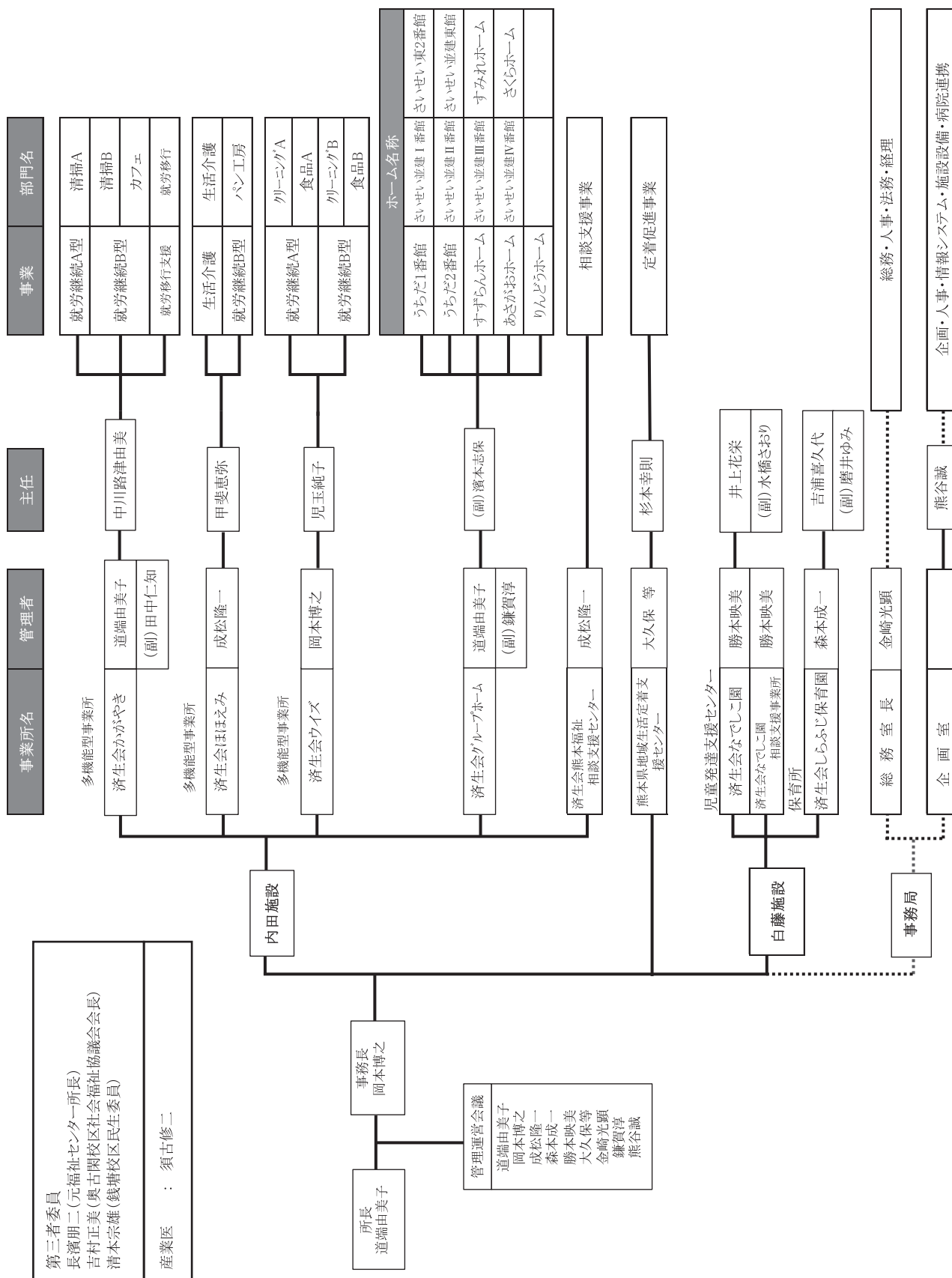
事業案内

| 事業種別 | 施設名 | | 定員 |
|-----------------------|------------------|----------------------|-------|
| 障害福祉サービス事業 | 済生会かがやき | 就労継続支援 A 型 | 10 名 |
| | | 就労継続支援 B 型 | 24 名 |
| | | 就労移行支援 | 6 名 |
| | 済生会ほほえみ | 生活介護 | 30 名 |
| | | 就労継続支援 B 型 | 10 名 |
| | 済生会ウイズ | 就労継続支援 A 型 | 25 名 |
| | | 就労継続支援 B 型 | 32 名 |
| | 済生会グループホーム事業所 | 共同生活援助 | 87 名 |
| 短期入所 | | 5 名 | |
| 障害児通所支援事業 | 済生会なでしこ園 | 児童発達支援事業 保育所等訪問事業 | 30 名 |
| 保育所 | 済生会しらふじ保育園 | | 160 名 |
| 地域子育て支援拠点事業 | | | — |
| 一時預かり事業 | | | — |
| 障害児相談支援事業 特定相談支援事業 | 済生会熊本福祉相談支援センター | | — |
| | 済生会なでしこ園 相談支援事業所 | | — |
| 一般相談支援事業 | 済生会熊本福祉相談支援センター | | — |
| 地域生活定着促進事業 | 熊本県地域生活定着支援センター | | — |

| 内田施設 | 白藤施設 |
|--|--|
| 【職員数】 管理者・副管理者 6名 サービス管理責任者 7名 支援員 41名 夜勤専門支援員 4名 世話人（委託契約含） 21名 相談支援専門員 3名 相談員（地域定着支援） 3名 看護師 1名 管理栄養士 1名 調理師 2名 技術顧問 1名 支援員補助 1名 作業指導員 24名 事務員 6名 (121名) | 【職員数】 園長 2名 児童発達支援管理責任者 1名 保育士 33名 保育補助 2名 児童指導員 3名 言語聴覚士 2名 看護師 2名 相談支援専門員 1名 調理員 4名 調理補助員 3名 事務員 3名 労務員 1名 (57名) |
| 【資産概要】 敷地面積 12,106.84 m ² 延床面積 7,114.06 m ² | 【資産概要】 敷地面積 3,884.17 m ² 延床面積 1,754.76 m ² |
| 【協力医療機関】 （順不同） 済生会熊本病院（南区近見） 済生会みすみ病院（宇城市三角町） あきた病院（南区会富町） かやの歯科（南区砂原町） 【嘱託医】 須古修二 | 【協力医療機関】 （順不同） 済生会熊本病院（南区近見） 瀬口医院（南区白藤） 城南歯科医院（南区近見） 【嘱託医】 瀬口良三郎、岡田稔久、宮本格尚 |
| 【第三者委員】 長濱 朋二 ・ 吉村 正美 ・ 清本 宗雄 | |

2017年3月現在

組織図



2017年3月現在

会議・委員会

| | | 名称 | 目的 |
|----|---------|--------------------------|---|
| 所長 | 会議 | 管理運営会議 | 施設の運営、方針、購入など、福祉センターの運営に関わる意思決定を行う。 |
| | | 運営検討会議 | 各事業所の課題を共有し、問題解決を行う。施設運営の企画検討を行う。 |
| | | 主任会議 | 事業所間での調整事項、利用者情報の共有や連絡を行う。 |
| | | 職員会議 | 施設運営に関することや利用者情報など、職員間での情報共有や連絡を行う。 |
| | | 給食会議 | 給食に関する職員からの感想及び要望をまとめ、献立企画につなげる。食事提供におけるインシデントアクシデントの報告。 |
| | 委員会 | サービス向上委員会 | 利用者のニーズを踏まえた質の高いサービス体制を確立する。施設間の連携による最適な利用者支援を推進する。 |
| | | 地域連携委員会 | 地域行事への参加や地域貢献活動を企画・推進する。 |
| | | 広報委員会 | 広報誌の発行(すまいるん、済生くまもと、済生)、ホームページ等による広報活動の推進を通じ、済生会熊本福祉センターのPRを行う。 |
| | | 研修委員会 | 職員の能力向上を目的とした研修会の企画・運営を行う。 |
| | | 環境美化委員会 | 内田施設全体の環境美化活動の企画推進を行う。 |
| | | 安全衛生委員会 | 労働者及び従業員の健康障害防止、健康保持増進、安全管理体制の整備。 |
| | | ハラスメント防止委員会 | 施設内のハラスメント問題の予防、対応、対策を行う。 |
| | 虐待防止委員会 | 施設内の虐待防止に関する予防、対応、対策を行う。 | |
| | 外部 | 就労センター販売促進会議 | 熊本県セルフセンターの販売促進委員会 |
| | | 就労センター企画研修 | 熊本県セルフセンターの企画研修委員会 |

2016 年度事業報告

2016 年度は熊本地震の対応と復旧に追われた年であったが、福祉避難所等の活動を通して地域に貢献することができた。天明地区の復興イベントや熊本・みすみ両病院の健康フェア参加等により福祉センターの情報発信にも努めた。

また、熊本地震を教訓に災害対応マニュアルの刷新や実践的な防災訓練の実施にも注力した。2016 年度のキーワードである「意識変革」については、キャリアパスの改定や昇級昇格試験の改革、各種研修等の人材育成により、社会福祉法人改正や来るべき報酬改正対応に努めている。

1. 熊本地震関連

- (1) 被害総額福祉センター全体 27,370 千円
(うち公費補助予定 3/4、17,158 千円、残額は損害填補充当予定)
- (2) 社会貢献活動
 - ①福祉避難所活動 熊本市 1 名、宇城市 1 名の障害者受入
 - ②熊本市内の障害者施設の救援物資集積所としての活動
2 月 23 日、全国社会就労センターより表彰(県内 3 施設)を受ける。
 - ③「がんばろう天明復興祭」への参画
天明商工会主催の復興イベント(8/12)に協力施設として参加

2. 利用者数の状況

しらふじ保育園においては保育士不足による園児の受入減少、かがやき、ほほえみでは熊本地震の影響もあり、延べ利用者数は前年度を下回った。ウイズとグループホームでは登録者数増加、なでしこ園は開園日の増加により利用率は上昇した。

2016 年度トピックス

| | |
|------|---|
| 4 月 | 新入職員オリエンテーション 熊本地震 |
| 5 月 | 防災訓練 |
| 6 月 | 秋篠宮殿下ご訪問 熊本県地域生活定着支援センター移転 |
| 8 月 | 内田夏祭り・天明復興祭 防犯カメラ設置工事 |
| 9 月 | パート、世話人ステップアップ研修会 |
| 10 月 | 熊本病院済生会フェア参加 福祉センター一般職員研修会 |
| 11 月 | かがやき第三者評価受審 幹部職員研修会 みすみ病院健康フェスタ参加 |
| 1 月 | 新年式 グループホーム用地取得 ひまわり家族会懇親会 なでしこ園、熊本市監査 |
| 2 月 | 第三者委員事業報告会 ウイズ、熊本市実地指導 |
| 3 月 | 永年勤続表彰伝達式・職員互助会親睦会 定着センター関係機関担当者連絡会議 しらふじ保育園、なでしこ園卒園式 |

2016 年度事業報告

〈延べ利用者（児）数の推移〉

（単位：人）

| 事業所 | 定員 | 平均登録者数 | | 月間平均延べ利用者 | | | |
|---------|-----|--------|--------|-----------|--------|------|-------|
| | | 2015 年 | 2016 年 | 2015 年 | 2016 年 | 前年比 | 増減率 |
| かがやき | 40 | 40 | 40 | 830 | 816 | ▲14 | ▲1.7% |
| ほほえみ | 40 | 41 | 41 | 838 | 827 | ▲11 | ▲1.3% |
| ウイズ | 57 | 49 | 52 | 1,040 | 1,082 | +42 | +4.0% |
| グループホーム | 87 | 83 | 84 | 2,429 | 2,457 | +28 | +1.2% |
| なでしこ園 | 30 | 38 | 38 | 489 | 514 | +25 | +5.1% |
| しらふじ保育園 | 160 | 170 | 165 | 3,343 | 3,113 | ▲230 | ▲6.9% |
| 合 計 | 414 | 421 | 420 | 8,969 | 8,809 | ▲160 | ▲1.8% |

3. 就労継続支援事業・施設整備関係

- ・就労継続支援事業では不採算だった野菜カット事業から福祉センター内給食事業に転換し収支を改善した。
- ・2017 年 1 月グループホーム用地取得 165 坪、建築については施設整備補助金申請中
- ・防犯カメラ（8 か所）設置及び非常通報装置導入により防犯体制を強化した。
- ・しらふじ保育園では業務の効率化のため ICT システムを導入した。
- ・熊本県地域生活定着支援センター：6 月、熊本病院から福祉センター内に移転

4. 福祉サービス第三者評価受審

障害福祉サービス事業者に熊本市で義務付けられた 3 年毎の第三者評価を、2016 年度は「かがやき」で受審、全事業所が受審し 2017 年度より順次 2 回目を受審する。

| 施設 | | なでしこ | グループホーム | ほほえみ | ウイズ | かがやき |
|------|---|---------|---------|---------|---------|---------|
| 年度 | | 2014 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 | 2015 年度 | 2016 年度 |
| 評価結果 | a | 61 | 69 | 68 | 53 | 58 |
| | b | 8 | 13 | 1 | 8 | 4 |
| | c | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |



全国社会就労センターより表彰



済生会フェア「からだ健学祭」



グループホーム購入用地

熊本地震の記録

2016年4月14日（木）21時26分、4月16日（土）1時25分と2度にわたって起きた最大震度7の熊本地震。県内では、電気、水道、新幹線、高速道路等のライフラインが甚大な被害を受けた。福祉センターの状況は以下の通りであった。

1. 時系列の記録

| 日時 | 内容 | ライフライン等 |
|----------|--|---|
| 4月14日（木） | 21時26分地震発生（前震）マグニチュード6.5 最大震度7、熊本市震度6弱 キャビネット類が倒れ内外壁にヒビなどの被害 | |
| 4月15日（金） | <ul style="list-style-type: none"> ・地震の後片付け、被害確認 ・かがやき、ウイズ、しらふじ保育園通常運営 ほほえみ、なでしこ園休園 | 一時断水（内田施設、なでしこ園） |
| 4月16日（土） | 1時25分地震発生（本震）マグニチュード7.3 最大震度7、熊本市震度6強 <ul style="list-style-type: none"> ・（GH）並建ホーム利用者、内田町に避難 出勤可能職員10名応援 グループホーム当直対応 ・かがやき職員3名、熊本病院清掃作業実施 | 一時停電、断水 |
| 4月17日（日） | <ul style="list-style-type: none"> ・5cm程度地盤沈下により建物との隙間拡大確認 ・グループホーム避難利用者対応 ・施設食堂で利用者、職員への食事提供 ・熊本病院リネン補充のためクリーニング工場稼働 ・かがやきカフェで病院職員にパン販売 | 断水 ガソリン等燃料不足 |
| 4月18日（月） | <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部立ち上げ 災害対策会議（毎日11時00分、16時00分開催） ・かがやき（A型のみ）・ウイズ（A・B型通常勤務） ・休園（しらふじ保育園） ・職員の1/4程度は避難所又は車中泊 ・11時00分済生会本部にDCAT要請 本部からめずら荘等へ応援要請連絡 | <ul style="list-style-type: none"> ・市水供給、少量で濁りあり。 ・トイレ等の生活用水確保のため、井水タンクから上水道貯蔵タンクに送水開始 ・2番館水道管破損確認 ・食事提供（救援物資非常食） |
| 4月19日（火） | <ul style="list-style-type: none"> ・かがやき、熊本病院内事業一部営業 ・14時00分DCAT第1陣到着 めずら荘（2名） ・GH夜間支援ミーティング ・ほほえみエレベーター棟破損により使用不能 ・しらふじ保育園より保育士みすみ病院派遣1名 | 余震頻発（震度3～5） <ul style="list-style-type: none"> ・GHシャワー一部実施 ・支部、本部、施設 |

熊本地震の記録

| 日時 | 内容 | ライフライン等 |
|----------|--|------------------------|
| 4月19日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・なでしこ園、職員家族の避難所として園舎開放 ・相談支援センターと定着支援センターは利用者の安否確認や支援物資の配布 | 協会及び DCAT 派遣施設より救援物資到着 |
| 4月20日(水) | <ul style="list-style-type: none"> ・熊本県社会就労センター拠点施設指定 ・全社協 阿由葉会長、セルフセンター川俣会長訪問 ・しらふじ保育園より保育士みすみ病院派遣2名 | 全社協支援物資持参 |

2. 被災状況

| 事業所名 | 被災の概要 | 被害額 |
|---------|---------------------------|--------------|
| かがやき | 屋根一部損壊、雨漏り、外構舗装の沈下 | 1,126,332 円 |
| ほほえみ | 地盤沈下、建物ひび割れ、エレベーター損壊により停止 | 11,512,800 円 |
| ウイズ | 工場排水設備損壊、内外壁ひび割れ・決壊 | 4,511,120 円 |
| グループホーム | 水道管破裂、浄化槽破損 | 8,790,885 円 |
| なでしこ園 | 建物内装ひび割れ、落下物による壁破損 | 1,134,000 円 |
| しらふじ保育園 | 内装・外壁ひび割れ、外階段き裂、ガス管断裂 | 865,771 円 |
| 合計 | | 27,980,908 円 |

3. 当時の状況



ほほえみ地盤沈下



りんどうホーム



水道管断裂(うちだ2番館)



利用者の避難生活



非常食による食事提供



トイレ用水の補給



DCAT、済生会本部より多大なる支援を頂いた



数多く頂いた支援物資の一部

4. 済生会 DCAT (Disaster Care Assistance Team) 派遣状況

済生会の独自制度であり、災害時に介護スタッフを派遣する済生会 DCAT (災害派遣福祉チーム) が済生会本部の指揮の下、初めて派遣された。4月19日(火)～5月9日(月)の21日間、9施設より延べ77名の方に支援頂いた。

| 日付 | 曜日 | 派遣施設名 | 地区 | 人数 |
|-------|----|-----------------|-----|----|
| 4月19日 | 火 | 特別養護老人ホーム めずら荘 | 佐賀 | 2 |
| 4月20日 | 水 | 特別養護老人ホーム めずら荘 | 佐賀 | 2 |
| 4月21日 | 木 | 特別養護老人ホーム めずら荘 | 佐賀 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム むさし苑 | 福岡 | 2 |
| 4月22日 | 金 | 特別養護老人ホーム むさし苑 | 福岡 | 2 |
| 4月23日 | 土 | 特別養護老人ホーム むさし苑 | 福岡 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム 高喜苑 | 鹿児島 | 2 |
| 4月24日 | 日 | 特別養護老人ホーム 高喜苑 | 鹿児島 | 2 |
| 4月25日 | 月 | 特別養護老人ホーム 高喜苑 | 鹿児島 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム なでしこ荘 | 長崎 | 2 |
| 4月26日 | 火 | 特別養護老人ホーム たかね荘 | 広島 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム なでしこ荘 | 長崎 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム たかね荘 | 広島 | 2 |

熊本地震の記録

| 日付 | 曜日 | 派遣施設名 | 地区 | 人数 |
|-------|----|------------------|-----|----|
| 4月27日 | 水 | 特別養護老人ホーム なでしこ荘 | 長崎 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム たかね荘 | 広島 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム みなみがた荘 | 岡山 | 2 |
| 4月28日 | 木 | 特別養護老人ホーム みなみがた荘 | 岡山 | 2 |
| 4月29日 | 金 | 特別養護老人ホーム みなみがた荘 | 岡山 | 2 |
| | | 障害者支援施設 なでしこ園 | 山口 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム 貴船園 | 山口 | 1 |
| 4月30日 | 土 | 障害者支援施設 なでしこ園 | 山口 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム 貴船園 | 山口 | 1 |
| 5月1日 | 日 | 障害者支援施設 なでしこ園 | 山口 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム 貴船園 | 山口 | 1 |
| | | 松山特別養護老人ホーム | 愛媛 | 2 |
| 5月2日 | 月 | 松山特別養護老人ホーム | 愛媛 | 2 |
| 5月3日 | 火 | 松山特別養護老人ホーム | 愛媛 | 2 |
| 5月4日 | 水 | 松山特別養護老人ホーム | 愛媛 | 2 |
| 5月5日 | 木 | 松山特別養護老人ホーム | 愛媛 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム むさし苑 | 福岡 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム めずら荘 | 佐賀 | 2 |
| 5月6日 | 金 | 特別養護老人ホーム むさし苑 | 福岡 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム めずら荘 | 佐賀 | 2 |
| 5月7日 | 土 | 特別養護老人ホーム むさし苑 | 福岡 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム めずら荘 | 佐賀 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム 高喜苑 | 鹿児島 | 2 |
| 5月8日 | 日 | 特別養護老人ホーム むさし苑 | 福岡 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム 高喜苑 | 鹿児島 | 2 |
| 5月9日 | 月 | 特別養護老人ホーム むさし苑 | 福岡 | 2 |
| | | 特別養護老人ホーム 高喜苑 | 鹿児島 | 2 |



水の補給作業



話をたくさん聞いて頂きました



集合写真

5. 総裁ご訪問

済生会総裁の秋篠宮殿下が6月1日、済生会熊本福祉センターをご訪問になり、熊本地震による被災状況と当センターの取り組みをご覧になった。

殿下は、豊田章一郎会長、炭谷茂理事長、潮谷義子理事（元熊本県知事）、熊本県済生会・須古博信支部長、済生会熊本病院・副島秀久院長、熊本福祉センター・道端由美子所長らが出迎える中、午後3時頃当センターにご到着。道端由美子所長と岡本博之事務長から、施設や利用者及び職員の被災状況について説明を受けられながら施設内を見て回られた。熊本地震で全国初の出動となったDCAT（災害派遣福祉チーム）の活躍についても聴き入っておられた。

殿下は、各事業所の取り組みや被害状況を掲示したパネルをご覧になり、被災した職員に対して「大変な苦勞をなさいましたね」などとねぎらいの言葉をかけられた。職員は、「温かい言葉をかけていただき、話をとても丁寧に聴いてくださった。地震に負けず、これからより一層頑張っていこうという気持ちが強くなった」と話していた。

生活介護・就労継続支援事業を行う「済生会ほほえみ」では、殿下は作業中の利用者さん一人ひとりにお顔を近づけて、作業内容やグループホームでの生活の様子などを優しくお尋ねになられた。就労継続支援事業でクリーニングや食品業務を行う「済生会ウイズ」でも、被災状況の説明や仕事の内容について話を聴かれ、利用者や被災した職員一人ひとりにお声をかけられた。お声を掛けていただいた職員は、「一人ひとりの話をゆっくり丁寧に聴いていただき、とても感動した」と興奮した様子で話していた。

地震に負けず、利用者と職員みんなで協力して当センターを盛り上げていこうと、気持ちを強くさせていただいた貴重な一日となった。

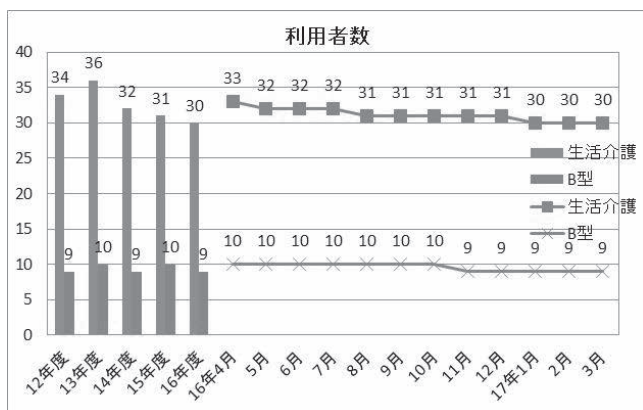


1. スタッフ構成 (2017年3月1日時点)

| | | | |
|-------|----|-----|----|
| 管理者 | 1名 | 支援員 | 9名 |
| 主任 | 1名 | 事務員 | 1名 |
| 作業支援員 | 1名 | 育休中 | 3名 |

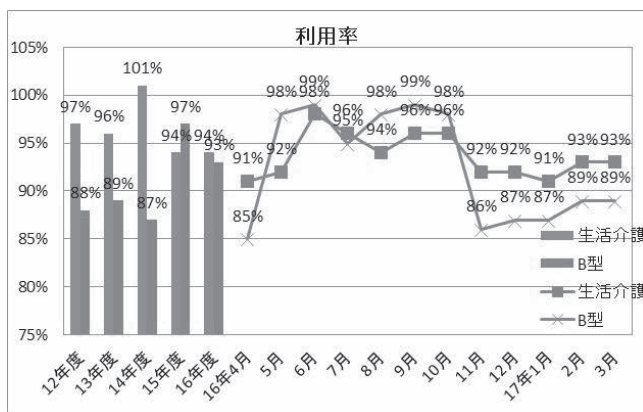
2. 今年度の活動

(1) 利用者数



高齢者施設・他事業所への移行、病気による死亡により4名が退所。

(2) 利用率



4月は地震の影響、11月以降は退所や入院に伴い利用率が大きく低下。

(3) 事業概要

2016年度は、「安定化」をキーワードに福祉サービス第三者評価結果の維持継続に力点を置き、特にストレングス視点に基づく支援の充実に焦点を当て、更なる質の向上を目指した。しかし、4月の熊本地震、利用者の減少、育児休業などによるマンパワーの変化により、事業計画通りには進まなかったなか、以下の内容に努めている。

①質の高い福祉サービスの提供…「ストレングス」

生活介護では、利用者一人ひとりのストレングスを視覚化し、職員のみならず利用者自身も自分の良さや強みを理解でき、来客者にも高い評価を得た。

②地域社会・家族との連携…「つながり」

B型では、地域との繋がりを重視した取り組みとして、熊本地震直後は地域の公民館や高齢者施設などへパンの提供や販売/地域の保育園で提供される給食やおやつのパンの納品開始/販売を行わせて頂いた西熊本駅の清掃活動/他事業所訪問/パン教室の開催等を行った。

生活介護では、利用者と一緒に地域に出かけ(お花見/江津湖・轟水源散策/温泉入浴/JR乗車/初詣/地域食堂利用等)、利用者の社会体験を促進すると同時に、地域社会への啓発活動とした。

③経営基盤の安定…「意識」

高齢化や地震の影響等による退所で利用者数は減少したが、障害支援区分の認定調査時に適正な判定を得られるよう取り組んだことにより、生活介護利用者の区分が上がり報酬単価のアップに繋がった。また、前震後の閉所、その後、送迎再開まで時間を要したことにより欠席者数が増えたが、電話などによる状況確認や支援も請求が認められ大幅な収入減を免れた。このような取り組みにより、サービス活動収入を維持することができた。

④その他

熊本地震による建物の補修工事とパン工場の床面改修を12月から1月にかけて実施した。

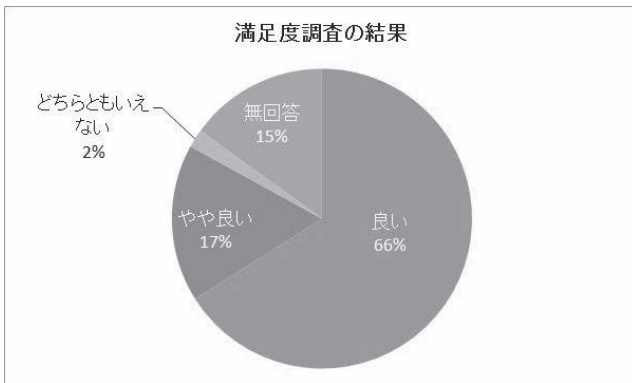
3. 苦情解決

| 分類 | 内容 | 件数 |
|----|--------------------|----|
| ① | 虐待・放置・脅迫・詐取等に関わる事項 | 0 |
| ② | ケアの内容に関わる事項 | 7 |
| ③ | 個人の嗜好・選択に関わる事項 | 1 |
| ④ | 財産管理・遺言・遺産など | 0 |
| ⑤ | 制度・施策・法律に関わる事項 | 0 |
| ⑥ | 工賃支給・作業内容に関わる事項 | 0 |
| ⑦ | その他 | 10 |

合計 18

「ケアの内容に関わる事項」「その他」の項目に多くの苦情や要望が寄せられた。苦情に関しては、十分な連絡、コミュニケーションが取れていないこと、利用者やご家族の気持ちを十分にくみ取れていないことが原因として考えられる。都度、職員間で情報を共有し、ケースによっては相談支援センターにも入ってもらい時間をかけ対応を行った。また、要望に関してはできる限り意向に沿うことができるよう調整を行っている。今後も、利用者、ご家族、関係機関から気軽に意見を頂けるよう努めていきたい。

4. 満足度調査の結果



生活介護 31 名、B 型 10 名の計 41 名に調査を実施。2016 年度は、集計方法が変わり「聞き取り不可能」を「未回答」とし母数に入れたため「良い」「やや良い」の合計の割合は減って見えるが、2015 年度に引き続き高い満足度を得ることができた。頂いたコメントから改善点も多くあげられたため、更なる改善を行い満足度の向上を図っていきたい。

5. 今後の課題と展望

現在、利用者の重度化により更なる支援体制の充実と高齢化への対応という課題が顕在化している。2017 年度は、利用者の確保とともに重度化・高齢化した利用者への支援の充実とリスク管理の強化を重点項目とし、ストレングスに焦点をおき利用者の視点に立った積極的な行動を起こす。

- (1) 重度・高齢利用者への支援、リスク管理
- (2) 体験日や開放日の設定、積極的な情報発信
- (3) 衛生管理強化、業務の「見える化」

活動写真



12月23日 忘年会 成人・還暦等お祝い
(ホワイトパレス)



9月10日 B型秋のレクレーション
(天草)



1月 生活介護 初詣
(栗島神社)

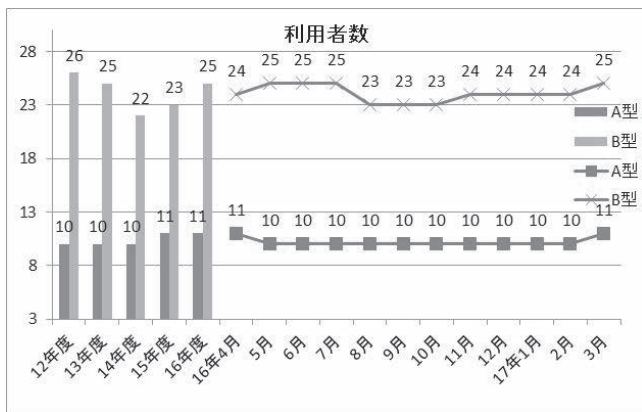
1. スタッフ構成 (2017年3月1日時点)

| | |
|-----|--------------|
| 管理者 | 2名 (副管理者含む) |
| 主任 | 2名 (副主任含む) |
| 支援員 | 9名 作業指導員 1名 |
| 事務員 | 2名 パート職員 12名 |

2. 今年度の活動

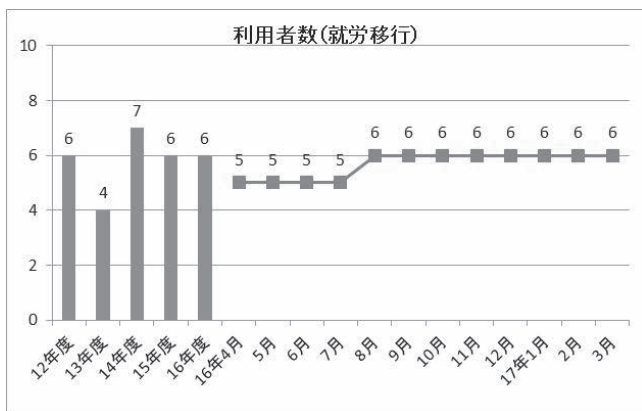
(1) 利用者数

①就労継続支援事業 A 型・B 型 利用者数



A 型は 4 月 11 名でスタートしたが、熊本地震により、5 月に 1 名退職した。3 月に 1 名採用し、11 名となった。B 型は 8 月に 2 名 (A 型、入所) 退職あるも 3 名 (5 月、11 月、3 月) 通所開始し、1 名増員となった。

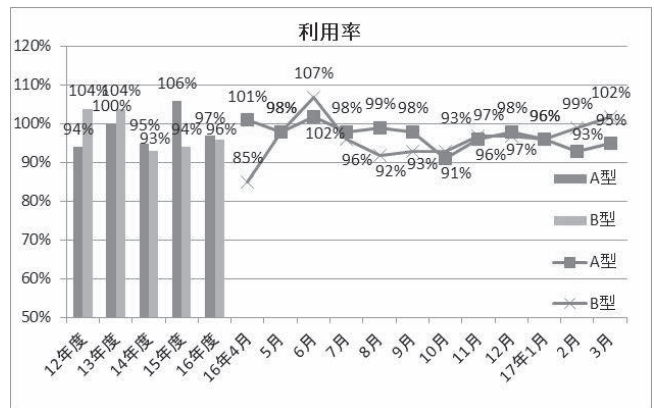
②就労移行事業利用者数



移行は 5 名で開始し、利用終了 2 名 (一般就労、体調不良)、利用開始 3 名 (在宅 2 名、他事業所 1 名) 6 名となる。

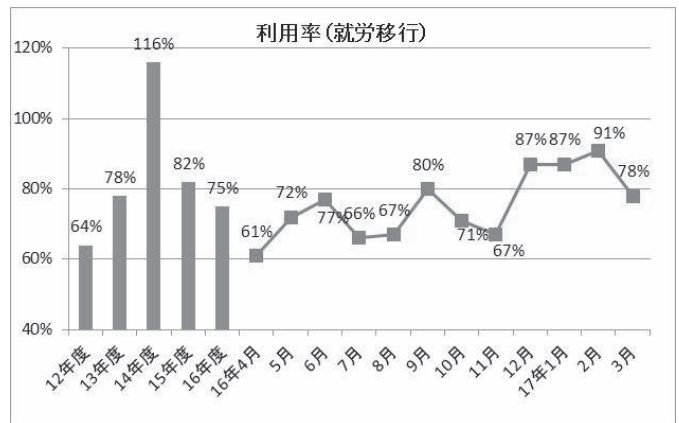
(2) 利用率

①就労継続支援事業 A 型・B 型 利用率



A 型は、熊本地震により退職後 90% 台で経過するも、3 月に 102% と上昇し、平均利用率 97% (2015 年度 106%)、B 型の平均利用率は 96% (2015 年度 94%) であった。

②就労移行事業利用率



2014 年度は、利用率 116% (上限 3 カ月平均 125% 以下) 及び定着体制加算で高値を示している。2016 年度以降は地震後、障害の特性上通所困難となり、4 月 61% と利用率の低下が目立った。平均利用率 75% (2016 年度 82%) と前年度より利用率は低下した。

(3) 熊本地震時の熊本病院と連携

4 月の熊本地震時は、熊本病院と連携し、清掃や環境整備、カフェ事業を再開し、第一線の高度救急医療を陰ながら支えることができた。また、焼き立てパンを販売し、患者・家族、地域の方々に喜ばれ、それをきっかけに集客力につながった。予防医療センターの食事券の廃止等で減収が予想されたが、

イベント等の開催を多くし、素麺などの注文増により収益増に繋がった。

(4) 利用者のエンパワーメント強化し自治会発足

利用者の意見を事業に反映するために、利用者自治会を発足した。利用者アンケート結果や自治会の意見を給食会議、日中活動に取り入れることができた。また、地域社会・家族との連携においては、家族見学会（6月）を開催し、7家族が参加した。B型日中活動では、地域清掃活動（5回/年）やボランティア団体の受入を行い、余暇活動の充実を図った。

(5) 業務運営組織を構築し、事業計画の促進

法人の委員会の傘下に、事業所内でサービス向上や地域部や育成部など8つの部会を発足し、事業計画の進捗管理を行った。また、職員の質向上に向けて、ポートフォリオを個人別に作成し、キャリア開発に役立てた。

(6) 福祉サービス第三者評価を受審後

福祉サービス第三者評価を受審(11月)の結果はA評価58、B評価4、C評価0であった。熊本病院のJCI（国際病院評価機構）受審に対応し、質向上を目指したことが評価された。良い点は、①福祉人材の育成、②利用者尊重の重点、③サービスの質の向上、改善点として、①中長期事業計画の透明化、②社会適応訓練プログラムの作成、③設備投資であった。結果は事業所または法人内で17項目を提案し、実践に取り組んだ。

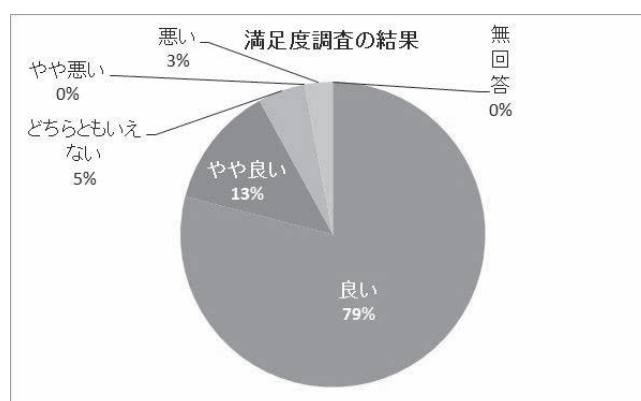
3. 苦情解決

| 分類 | 内容 | 件数 |
|----|--------------------|----|
| ① | 虐待・放置・脅迫・詐取等に関わる事項 | 0 |
| ② | ケアの内容に関わる事項 | 4 |
| ③ | 個人の嗜好・選択に関わる事項 | 0 |
| ④ | 財産管理・遺言・遺産など | 0 |
| ⑤ | 制度・施策・法律に関わる事項 | 0 |
| ⑥ | 工賃支給・作業内容に関わる事項 | 0 |
| ⑦ | その他 | 7 |

合計 11

ケアの内容の関わる事項としては職員の退職に伴う新規採用や異動者と利用者との関係性の不足で発生したと思われる。また、その他の内容としては地震や天候に影響され道路渋滞が発生し、時間の遅れなどの送迎サービスへの指摘であった。事前の電話連絡など細やかな配慮が必要であり、職員間での対応と連絡の徹底を図るよう送迎マニュアル等の周知を行なった。

4. 満足度調査の結果



A型10名、B型23名、移行5名の計38名が回答し、「良い」79%（2016年度70%）の回答から9%向上している。2016年度は利用者の声を多く聴くため、自治会発足や相談受付の強化により、職員の聴く姿勢が増えた事で「職員の態度・対応」66%（2016年度55%）が影響していると考えられる。また、工賃向上の一部見直しを行なったことで、「工賃・給料」について「良い」が50%（2016年度35%）に上昇した。2018年度も利用者の声を聴く体制作りを更に強化し、実感できる仕組みを構築していきたい。

5. 今後の課題と展望

(1) 3事業の利用者・利用率向上をタイムリーに把握する仕組みを構築し、2018年度の新たな就労定着支援事業の新設に伴うシミュレーションを検討する。

(2) 熊本地震は済生会の理念を再認識し、病院との連携・協働が大切であることを実感した。今後も熊本病院の動向に注力し、変化への対応を迅速に行なう。

(3) (4) (5) 福祉サービス第三者評価は組織の良い点、課題に気づき、全国標準を認識する機会を得た。今後は年間の目標設定とPDCAの循環を促進させ、組織的かつ継続的な改善活動を推進していきたい。

活動写真



6月17日、22日 家族見学会（熊本病院）



11月10～11日 福祉サービス第三者評価受審



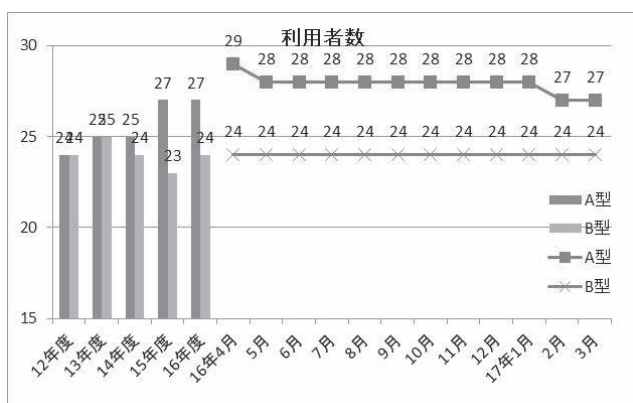
12月17日 天草で忘年会

1. スタッフ構成 (2017年3月1日時点)

| | | | |
|-----|-----|-------|----|
| 管理者 | 1名 | 作業指導員 | 9名 |
| 主任 | 1名 | 調理師 | 2名 |
| 支援員 | 11名 | 管理栄養士 | 1名 |
| 事務員 | 1名 | | |

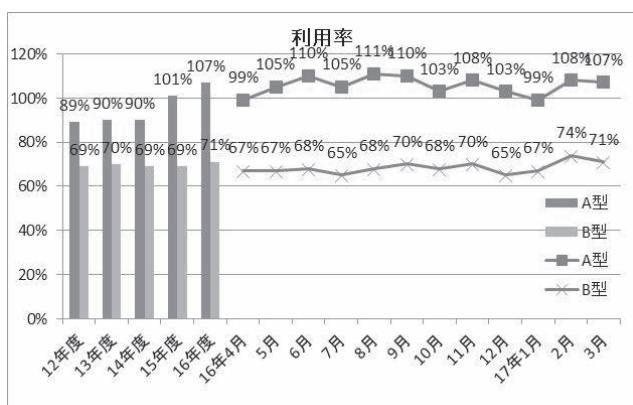
2. 今年度の活動

(1) 利用者数



- ・A型では4月に新卒で1名採用、5月に一般就労者1名、1月末1名退職により年度では2名減少し27名となった。
- ・B型は24名で変動なし。

(2) 利用率



- ・A型では、4月は震災の影響、1月は長期欠勤者の影響で99%となったが、その他の月は100%を超え年間でも前年比6ポイント増加した。
- ・B型は震災後天草に避難した利用者がいたため利用率は低かったが、日中活動の増加等で前年より2ポイント増加した。

(3) 活動内容

2016年度は、4月に発生した熊本地震の影響は大きかったが、利用者やDCAT（済生会災害時派遣介護チーム）の協力により、本震の翌日からクリーニング工場を稼働するなど熊本病院の診療活動にも貢献できた。利用者支援においてはエンパワメントに重点を置き、利用者満足度向上に努めた。

① 質の高い福祉サービスの提供

2015年度の第三者評価を踏まえ、マニュアルの整備や一般就労支援等の質の向上を図った。

- ・熊本市障がい保健福祉課実地指導

2017年2月7日、新体系移行後初めての実地指導があり、運営規程等で2件ほど語句の修正はあったが大きな指摘はなかった。

- ・一般就労支援強化

一般就労1名、就労にはつながらなかったが、利用者のニーズにより「サポートセンター縁」との連携で2名の職場実習を実施した。

- ・支援計画書の書式を一部変更し、本人の強みや長所を追加、29年度より使用する。
- ・工賃、賃金の向上

(月間平均工賃・賃金) 【単位：円】

| | 14年度 | 15年度 | 16年度 |
|----|--------|---------|---------|
| 工賃 | 18,504 | 18,549 | 18,556 |
| 賃金 | 96,227 | 100,277 | 104,877 |

B型月間平均工賃は前年度より7円増加し18,556円となった。A型従業員の最低賃金適用者は15名と変わらないものの、最低賃金が694円から715円に上昇したため、一人当たり月間平均賃金は4,600円増加の104,877円となった。

② 地域社会・家族との連携

昨年に引き続き見学会や体験会を開催した。

- ・施設見学会・情報交換会開催

10月15日、10家族参加

- ・就労体験会開催

8月23日～26日、12家族参加

・実習受入

支援学校から延べ 13 名の実習生、尚絅短大から保育実習生 1 名、天明、飽田、日吉の各中学校からナイストライの生徒を受け入れた。

・ボランティア活動

地域清掃活動を 4 回実施、イベントにも積極的に参加した。(天明復興祭・熊本病院済生会フェア・みすみ健康フェスタ)

③ 経営基盤の安定

就労支援事業の見直しやリスク管理に努めた。

・A 型事業で、不採算の野菜カット事業から給食事業に転換、収支を改善した。

・定員充足率向上

平均登録者数は 49 名から 52 名へと 3 名増加

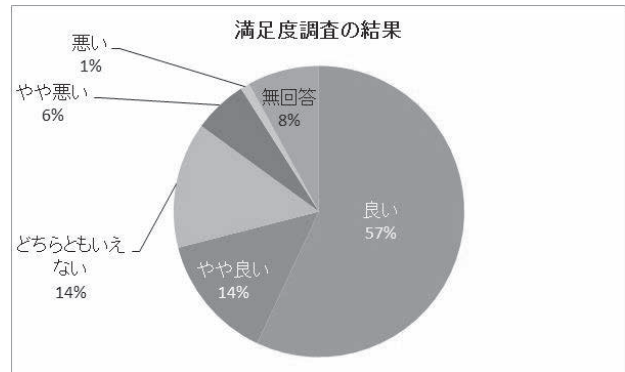
3. 苦情解決

| 分類 | 内容 | 件数 |
|----|--------------------|----|
| ① | 虐待・放置・脅迫・詐取等に関わる事項 | 0 |
| ② | ケアの内容に関わる事項 | 1 |
| ③ | 個人の嗜好・選択に関わる事項 | 0 |
| ④ | 財産管理・遺言・遺産など | 0 |
| ⑤ | 制度・施策・法律に関わる事項 | 0 |
| ⑥ | 工賃支給・作業内容に関わる事項 | 2 |
| ⑦ | その他 | 5 |
| | 合計 | 8 |

その他の項目の多くは、利用者間のトラブルによる苦情。携帯電話のメールやラインでのトラブルやは解決できないため、相談に来られたケースもあり、両者の話を聴き対応した。

外出時のお金のトラブルなど 4 件発生。自分たちでは解決できないため、相談に来られたケースもあり、両者の話を聴き対応した。

4. 満足度調査の結果



A 型 27 名、B 型 24 名、合計 51 名の回答。総合評価では「良い」「やや良い」が 71%だった。昨年度と比較すると「やや良い」が 22%減少し、「良い」「どちらでもない」「わからない」が共に増加した。質問内容をわかりやすい形式に変更したことで細やかな意見を聞くことが出来た。項目ごとの調査では、職員の態度や対応、施設整備、余暇活動で数人の方からご意見をいただいたので、ご要望やご不満点については改善し、さらに質の高いサービスが提供できるよう、職員全員で努力していく。

5. 今後の課題と展望

2017 年度も引き続き利用者及び利用者家族の更なる満足度の向上に努める。

- (1) エンパワメントプログラムの整備、推進
利用者自治会発足等のプログラム展開
- (2) 体験会開催等による家族や地域との連携強化
利用者、家族、支援学校、地域への積極的な情報発信
- (3) 2018 年度報酬改定に向けての体制整備
食事提供加算廃止等をにらんだ体制の整備
- (4) その他
クリーニング事業における設備の更新



7月16日 そうめん流し



4月3日 給食事業開始



11月12日 世界遺産 三池炭鉱宮原坑跡見学



10月14日 家族見学会・情報交換会



12月29日 B型利用者忘年会 (エミナース)



8月23日～26日 就労体験会

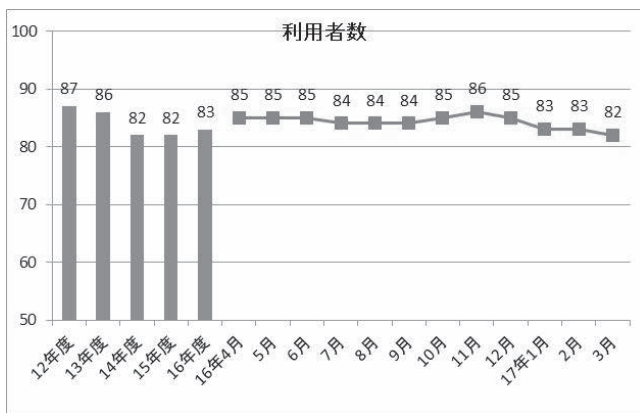
1. スタッフ構成 (2017年3月1日時点)

| | | | |
|-----|-----|---------|----|
| 管理者 | 1名 | 副管理者 | 1名 |
| 副主任 | 1名 | | |
| 支援員 | 9名 | 夜勤専門支援員 | 4名 |
| 世話人 | 19名 | 支援員補助 | 2名 |
| 事務員 | 2名 | | |

2. 今年度の活動

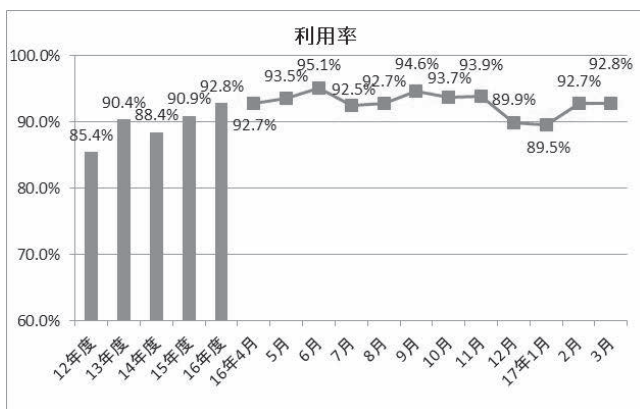
(1) 利用者数及び利用率

①グループホーム利用者数



4月は85名でスタートしたが、途中7名退所(自宅3名、入所2名、他ホーム2名)と4名入所(自宅3名、児童施設1名)があり、3名減少し82名となった。

②グループホーム利用率



平均利用率は92.8%(2015年度91.8%)であり、目標値97%を下回った。

③短期入所事業の利用日数、利用率



短期入所は地震直後より入所希望のニーズが高く、33.8%(2015年度28.9%)と高値であり、目標値の月平均8名以上を上回り、10~11名を受け入れた。

(2) 防犯・防災対策の強化

2016年4月に発生した熊本地震を始め、県内外で起きた災害や事件に伴う防犯・防災対策の強化を図った。防災マニュアル改訂、連絡網の整備、防犯カメラ設置、非常通報装置設置、夜間の避難訓練、家族会説明等に取り組んだ。熊本地震においては、内田施設の食堂に男性42名に男性支援員、並建ホーム女性17名には女性支援員の宿直体制で約10日間対応した。福祉避難所としての入所者3名、短期入所利用者2~3名を継続して受け入れた。これは済生会本部のリーダーシップの下、DCAT(災害派遣福祉チーム)の派遣により実現できたことである。九州山口四国の9カ所の特養施設27名の方々に4月19日~5月9日まで21日間支援して頂いた。また全国から物資の支援により、利用者も地震の怖さを忘れ、笑顔で日常生活を取り戻すことができたことが、何よりも救いであった。

(3) 満足度向上を目指した組織体制の強化

利用者87名は、内田施設を中心に重度・高齢、地域には軽度、若年の利用者が14ヶ所に居住している。多様なニーズに対応するために、利用者の巡回訪問充実に向けて、遅出業務の効率化を図った。さらに、難渋事例については、家族や関係機関と連携し、課題解決に努めた。また、利用者満足度向上を目指して、利用者会議、ホーム再編成、食事会や小旅行、ボランティアの活用、地域行事への参加など余暇活

動の充実を図った。

(4) 新築に向けた検討

2015年6月より、グループホーム1棟を老朽化のため廃止し、同時に定員90名を87名にした。しかし、熊本市の障がい福祉計画 第4期計画(2015年作成)の地域移行に則り、土地購入を行うことができた。2017年度の補助金により、新しくホームを建築予定である。新築のホームは「並建V番館」として、ハード面、ソフト面を検討している。

(5) 感染症対策

インフルエンザの猛威により、センター全体の罹患者のうち、45%がグループホームの利用者、世話人、夜勤者であった。各事業所から除湿機を集めて湿度調節を行ない、一時短期入所者1週間の停止を図った。今後は早めの予防、発生時の迅速な対応の必要性を痛感した。

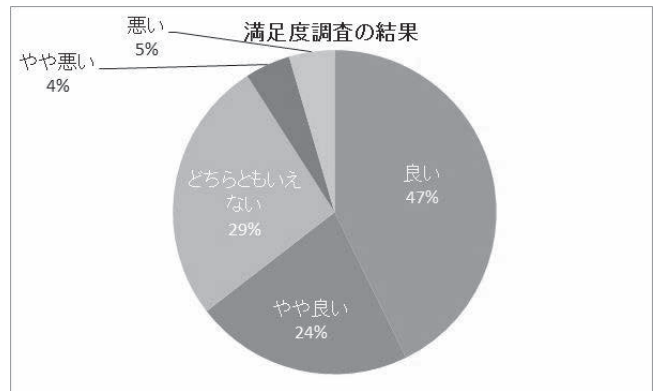
3. 苦情解決

| 分類 | 内容 | 件数 |
|----|--------------------|----|
| ① | 虐待・放置・脅迫・詐取等に関わる事項 | 0 |
| ② | ケアの内容に関わる事項 | 4 |
| ③ | 個人の嗜好・選択に関わる事項 | 1 |
| ④ | 財産管理・遺言・遺産など | 0 |
| ⑤ | 制度・施策・法律に関わる事項 | 0 |
| ⑥ | 工賃支給・作業内容に関わる事項 | 0 |
| ⑦ | その他 | 4 |

合計 9

苦情解決件数は9件で(2015年度7件)であった。ケアに関すること4件は、利用者への配慮不足が原因で家族からの苦情に繋がっている。その他は地域住民からの苦情などであった。苦情解決においては、自治会等の機能を活かし、相談しやすい雰囲気や話し合いの場を設けるなど、支援員、世話人、夜間支援専門員、他事業所等と連携して支援を強化していきたい。

4. 満足度調査の結果



総合評価は「良い」47%で前年度より14%アップしている。内容は「生活環境」「対人関係」「金銭管理」について、いずれもやや上昇している。次年度はグループホームの魅力を発信するパンフレットを作成し、情報発信に努めると共に、「職員の態度、対応について」は真摯に受け止め、今後も丁寧、迅速、確認を徹底して対応していきたい。

5. 今後の課題と展望

(1) 利用者向けのパンフレット作成などを行い、魅力あるホームを目指して新規利用者の確保、利用率の向上に努める。

(2) 非常用通報装置、防犯カメラの設置を行なったことで夜間体制支援体制強化が図れた。同時に夜間支援等体制加算ⅡからⅠを取得し、サービスの向上を図る。

(3) (4) (5) 多様なニーズに対応するために、自治会などを利用し、利用者の意見を傾聴しつつ、新築に向けたホーム編成、職員配置などの組織体制を整備する。また、2018年度の福祉サービス第三者評価更新や新たなサービス新設(自立支援事業)へのシミュレーションを行なう。さらに、日頃の健康管理と早めの感染症対策を行い、被害の拡大を最小限にする。

活動写真



4月2日 花見



11月5日 並建日帰り旅行(雲仙)



7月7日 七夕バルーンセラピー



12月18日 玉名温泉で忘年会



8月31日 夜間避難訓練



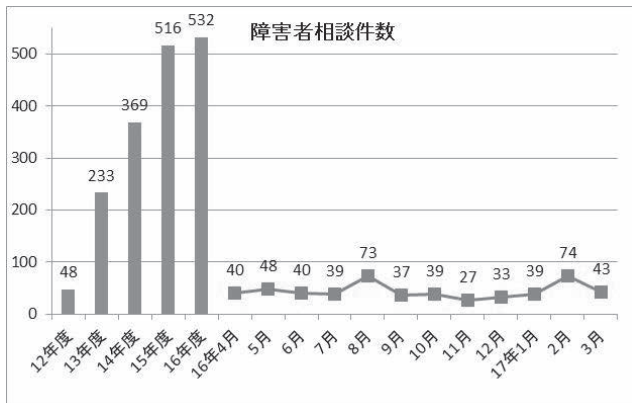
1月9日 鶯森地区のどんどや

1. スタッフ構成 (2017年3月1日時点)

| | |
|---------|----|
| 管理者 | 1名 |
| 相談支援専門員 | 3名 |
| 事務員 | 1名 |

2. 今年度の活動

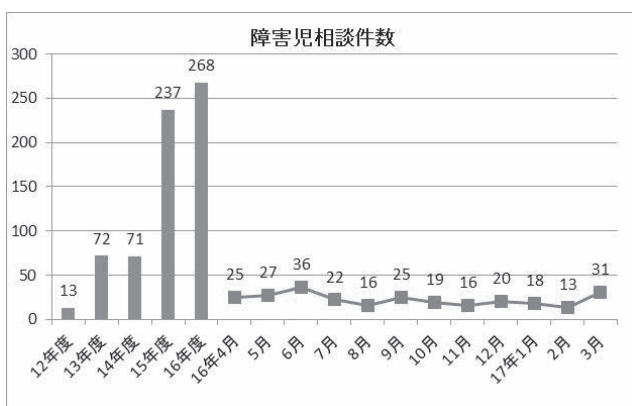
(1) 障害者相談件数



2016年度は、前年度と比較し16件増であった。月ごとでは、更新時期が特に多い2月に比例し、6か月後の8月が最も多い。(モニタリング頻度:1回/6か月)

障がい者の件数としては法人内の計画件数が多くを占めているのが現状である。

(2) 障害児相談件数



2016年度は、前年度と比較し31件増であった。

月ごとのグラフで見ると特に新規サービスへの移行時期でもある3月が多くなっている。

年々、障がい児における利用ニーズは増加傾向にあり、相談件数も増えているのが現状である。

(3) 事業実績

2016年度は計画相談件数目標を月平均60件とした。チェックリストを作成し、効率的な業務の展開を目指した。結果、2016年度末の実績として合計件数800件(月平均67件)であった。

対象者として障がい者が約7割、障がい児が約3割、内、南区の住まいの方が半数であった。

野中式勉強会の開催や障がい児相談の強化を図ることで相談援助技術と質の向上を目指した。また、今年度は法人外の就労系のサービスを利用されている方を対象にアンケートを実施。利用者のニーズ把握に努め、改善策を検討し、利用者・家族からの信頼確保・業務改善を行なった。

地域での活動としては熊本地震における相談支援を実施。担当利用者への電話連絡や避難場所訪問による安否確認、サービスや支給量の調整、居住地の確保等、調整・支援を行なった。また日本相談支援専門員協会と熊本県障がい者支援事業連絡協議会からの派遣依頼を受け、戸別訪問の実施や他相談支援事業所との情報共有のための会議に参加するなど、緊急性・必要性に応じた支援対策に取り組んだ。その他、教育機関への訪問や地域ケア会議や自立支援協議会への参加を行なうことで関係者との連携強化を図った。

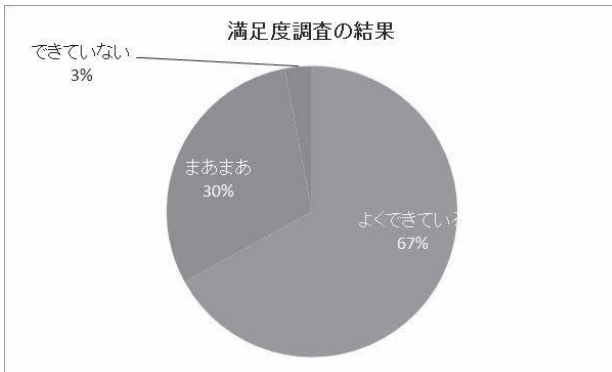
3. 苦情解決

| 分類 | 内容 | 件数 |
|----|--------------------|----|
| ① | 虐待・放置・脅迫・詐取等に関わる事項 | 0 |
| ② | ケアの内容に関わる事項 | 0 |
| ③ | 個人の嗜好・選択に関わる事項 | 0 |
| ④ | 財産管理・遺言・遺産など | 0 |
| ⑤ | 制度・施策・法律に関わる事項 | 1 |
| ⑥ | 工賃支給・作業内容に関わる事項 | 0 |
| ⑦ | その他 | 3 |

合計 4

その他の事項として3件挙がっている。利用者・家族や関係者への伝達ミスや関係者への連絡不足があった。丁寧な説明や双方とのやりとりの中で誤解を生じないように、適切な対応を行なっていく。

4. 満足度調査の結果



就労系のサービスを利用している事業所外の障がい者を対象にアンケートを行なった。「よくできている」67%・「まあまあできている」30%と「できていない」との評価を頂いた。また、その他の意見としてモニタリング以外での自宅訪問の希望者や社会資源を知りたいとのニーズがあった。今後、このようなニーズ等に対応できるよう連絡方法の提示や業務改善を行ない、選ばれる相談支援センターを目指していきたい。

5. 今後の課題と展望

2017年度は、利用者及び利用者家族の更なる満足度の向上を目標に、次の3つに取り組む。

① 質の高い福祉サービスの提供

相談支援技術の向上と質の標準化・利用者・家族からの信頼の確保を目指す。具体的には利用者の方のニーズやライフステージに応じた適切なサービス提供・満足度調査によるニーズの把握・対応に取り組む。

② 地域社会との連携強化

地域社会における相談支援センターの役割周知と信頼性の確保・関係療育及び地域相談支援事業所との連携強化・福祉人材の確保に取り組む。

③ 経営基盤の安定

安定的収入の確保と業務の効率性の向上を目指す。月平均件数を70件とする。また、なでしこ園相談支援事業所との統合に向けた現状と課題を把握する。

活動写真



野中式勉強会の様子



地域との連携

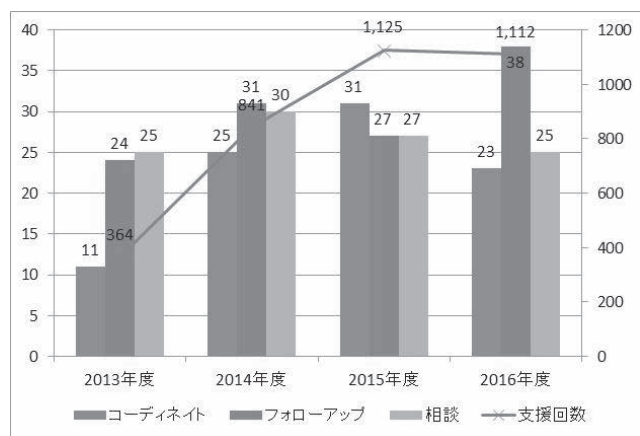
1. スタッフ構成 (2017年3月1日時点)

| | |
|-----|--------|
| 管理者 | 1名 |
| 主任 | 1名 |
| 支援員 | 2名 |
| 事務員 | 2名(兼務) |

2. 今年度の活動

| | |
|-----------|--------|
| コーディネイト件数 | 23件 |
| フォローアップ件数 | 38件 |
| 相談支援 | 件数 25件 |

対象者の数としては例年と大きな変化はなかった。訪問回数として昨年同様 1,000 件を超え、対象者の元へ出向いての様々な相談支援を行っていることを示している。



(1) 対象者の内訳

対象者の内訳は、次の表に示しているようにコーディネイト 23 件は、矯正施設別に見るとほとんどが九州圏内からの出所者であり、熊本、長崎で大半を占めている。犯罪別には窃盗が 15 件とほとんどであるが、殺人(暴行含)が 5 件含まれているのが特徴である。

福祉的な観点から区別すると「精神障がい」8 件、「高齢」9 件である。精神科の医療機関や高齢福祉サービスとの関係が重要視される。

又フォローアップしている中では、経済状態は生活保護につなぐケースが非常に多く 30 件。居住形態では、最終的には、アパートのひとり暮らしや、施設での共同生活に落ち着いている状況である。しかし、それまでには自立準備ホーム、病院、グルー

プホームなどの中間的な施設での生活を行うことが多い。今年度は熊本地震の影響もあって各施設、居住施設の受け入れがスムーズに行かないこともあったが、各方面の理解と協力をいただきながら生活の場を調整することができた。

コーディネイト 23 件 (男性 21、女性 2)

| 矯正施設別 | |
|-------|---|
| 熊本 | 6 |
| 長崎 | 7 |
| 福岡 | 3 |
| 大分 | 2 |
| 佐賀 | 2 |
| 宮崎 | 1 |
| 鹿児島 | 1 |
| 広島 | 1 |

| 犯罪別 (主たる) | |
|-----------|----|
| 窃盗 | 15 |
| 殺人(暴行含) | 5 |
| 放火 | 1 |
| 詐欺 | 1 |
| 道交違反 | 1 |

| 高齢・障害別 | |
|----------|---|
| 高齢 | 9 |
| 精神障がい | 8 |
| 知的+精神障がい | 2 |
| 知的障がい | 2 |
| 身体+精神障がい | 1 |
| 身体障がい | 1 |

フォローアップ 36 件 (男性 31、女性 5)

| 罪名別 | |
|---------|----|
| 窃盗 | 26 |
| 詐欺 | 3 |
| 殺人(未遂含) | 3 |
| 覚せい剤 | 2 |
| 道交法違反 | 2 |
| 強姦 | 1 |
| 放火 | 1 |

| 居住形態 | |
|---------|----|
| アパート | 10 |
| 施設 | 8 |
| 自立準備ホーム | 7 |
| 病院 | 6 |
| グループホーム | 4 |
| 自宅 | 3 |

| 経済状態 | |
|------|----|
| 生活保護 | 30 |
| 年金など | 8 |

| 就労 (福祉的就労含む) | |
|--------------|----|
| 就労不可 | 20 |
| 就労あり | 11 |
| 未就労 | 7 |

(2) 熊本地震下での活動

地域生活定着支援センターとして地震発生後、①安否確認②ライフラインの確保③訪問を通じて‘安心’の提供に取り組んだ。下表のように電話、訪問を連日のように重ね、支援物資を少しずつ提供しながら対話する時間も確保した。幸い大きな被害を受けられた対象者はいなかったが、不安を抱えながら生活されていたことは感じられた。

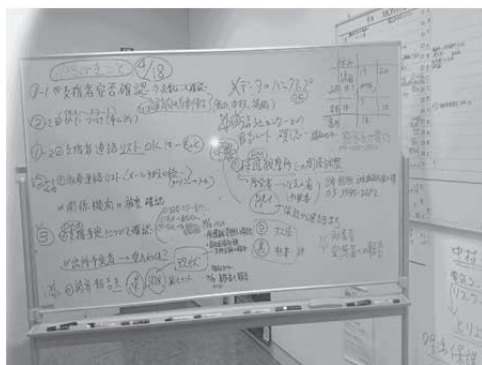
<訪問等件数>

| 4月 | 15 | 16 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 24 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 訪問 | 9 | | 5 | 3 | 12 | 10 | 13 | 1 |
| 電話 | 5 | 8 | 21 | 8 | 5 | 3 | 7 | 11 |
| 支援物資 | | | 1 | 1 | 5 | 6 | 6 | |



支援物資の提供

| 25 | 26 | 27 | 計 |
|----|----|----|----|
| 13 | 13 | 4 | 83 |
| 4 | 2 | 1 | 75 |
| 10 | 7 | 4 | 40 |



ホワイトボードで支援状況確認

(3) その他、啓発活動

「触法障がい者、高齢者」の問題及び「地域生活定着支援促進事業」についての啓発活動を下記の事業所にて行い合計8回 参加総数610人であった。

①済生会熊本病院スタッフ

②九州看護福祉大学学生

③熊本学園大学学生 (2回)

④関係者、地域住民 (大分市開催)

⑤九州ルーテル学院大学学生

⑥福祉関係者 (水俣市)

⑦障がい者能力開発センタースタッフ

3. 今後の課題と展望

2017年度は、昨年できなかった事を反省した上で、スタッフ一丸となって取り組んでいく。特に利用者への支援については専門性を持って、関係機関からの協力を得ると共に本人が望む生活が実現できる環境作りの構築を目指す。

新たに2年の期間、九州ブロック長を拝命したため年3回(7月、11月、2月)のブロック長の会議の開催を実施し、九州ブロック専門研修の開催(2月)を企画、運営する。

【質の高い福祉サービスの提供】

(1) スキルアップ

①専門研修への積極的参加を促す。

発表の機会を持ち、研鑽と発信力を育成させる

②研修会(シンポジウムなど)を主催する

九州ブロック専門研修の主催

(2) 人材の定着

①ノウハウの蓄積と継承

②働きやすい環境づくりに配慮した運営

(3) 支援の標準化

マニュアルのバージョンアップ、活用

【地域社会・家族との連携】

(1) 啓発活動

①全県域での啓発活動と各種団体との協働で多岐にわたる啓発活動を行う。

(2) 地域における支援体制の構築

①ハブ・スポークの支援体制の構築の実施

②ハブ機能を持つ事業所との連携の強化を行う。

③ハブ・スポークのテキスト作成と啓発

【経営基盤の安定】

(1) 経費の見直し

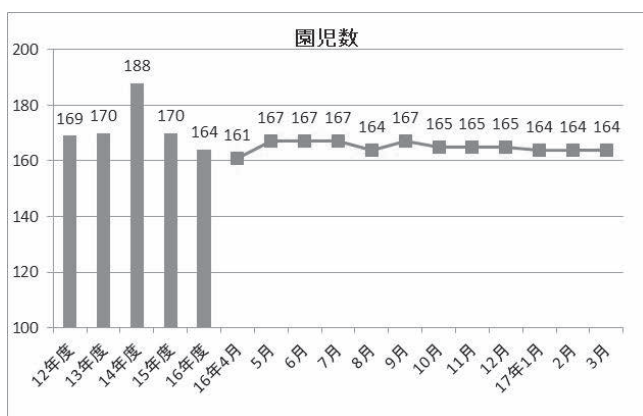
①委託費と費用の検証、②予算執行状況の管理

1. スタッフ構成 (2017年3月1日時点)

| | | | |
|------|-----|-----|----|
| 管理者 | 1名 | 看護師 | 1名 |
| 主任 | 1名 | 調理師 | 5名 |
| 副主任 | 1名 | 事務員 | 2名 |
| リーダー | 2名 | 補助員 | 3名 |
| 保育士 | 21名 | | |

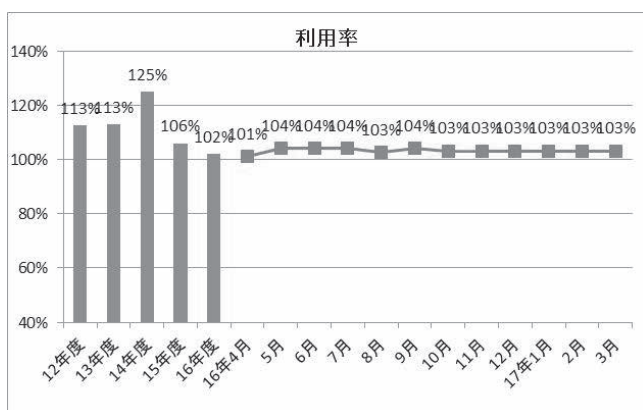
2. 今年度の活動

(1) 園児数



利用者については2014年度の188名をピークに年々減少をしている。最大の原因は保育士不足により、園児の受入が出来ない事と支援の必要な子どもの増加によるものである。

(2) 利用率



今年度は、保護者との日常の対応を十分に図ることで、利用者満足度アンケートの満足度を上げる事ができた。熊本地震の際は4月16日から20日まで休園した。その期間2日間はみすみ病院の託児の為に職員を延3名派遣した。4月21日からは保護者の負担を軽くする為に軽食ではあったが連休明けま

で保育園で昼食を作り提供した。また、余震の影響で夕方の1時間短縮して保育を行った。全国の済生会の保育園をはじめ多くの方より寄贈品や義援金を頂いた。地震による行事への影響は大きく、お見知り遠足は保育園で実施、5月20日には毎年公演してもらっている大分の「ひとり劇じゅんこ」さんが子どもたちを励ましに「さんちゃん」と一緒に来園した。

運動会は、予定していた南区役所の雁回館が被災した為、特別に熊本西高校体育館を使用させてもらい開催した。発表会は城南の火の君文化会館が被災した為に熊本病院のコンベンションホールを借りて開催した。行事は全般的に震災の影響で、計画していた内容通り進まなかったが、様々な皆さんからのご好意とご支援により1年を過ごす事ができた。また、会員サービス及び保育士の事務省力化を目指し、ICT《information and communication technology(情報通信技術)》に着手し、会員管理、保育記録等の管理を一元的に実施する。

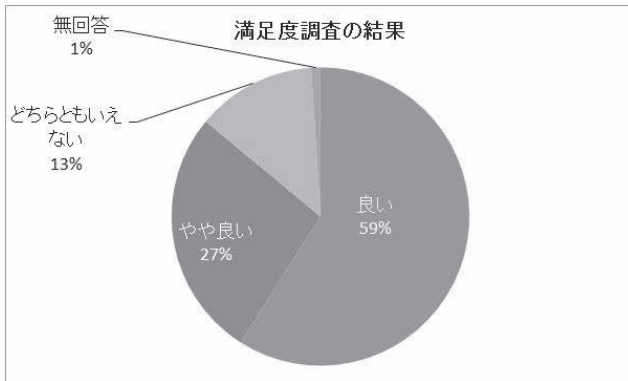
3. 苦情解決

| 分類 | 内容 | 件数 |
|----|--------------------|----|
| ① | 虐待・放置・脅迫・詐取等に関わる事項 | 0 |
| ② | ケアの内容に関わる事項 | 0 |
| ③ | 個人の嗜好・選択に関わる事項 | 0 |
| ④ | 財産管理・遺言・遺産など | 0 |
| ⑤ | 制度・施策・法律に関わる事項 | 0 |
| ⑥ | 工賃支給・作業内容に関わる事項 | 0 |
| ⑦ | その他 | 9 |

合計 9

熊本地震による休園・登園に際しての連絡や承諾書に対する苦情が5件あった。また、日頃の子どもの親御さんに対する接し方についての苦情が4件あった。今後も保護者に対しての十分な連絡・連携をとり情報の交換を密にする事が必要である。

4. 満足度調査の結果



所帯数 121 所帯中 77 所帯から回答があり良い 45 所帯、やや良い 21 所帯、どちらともいえない 10 所帯、無回答 1 所帯であった。良い 59%、やや良い 27%、どちらともいえない 13%で昨年の良い 50%、やや良い 33%、どちらともいえない 11%でより 5% 向上している。この理由として、今年度は保護者との連絡を密にとり、子どもの様子を伝えるようにしているためと思われる。また、支援を必要とする子どもの増加により、より家庭との連絡を綿密に行い、支援の時期を早期に開始できるように心がける。

5. 今後の課題と展望

2017 年度は地域に開かれた保育園を目指すために以下の 3 項目に重点を置いて展開する。

①プロジェクトを強化して保育の質を上げると共にホームページ・れんらくメールを活用した情報提供を行い、質の高い福祉サービスを提供する。なでしこ園と協力し、保護者に対するの支援に対するセミナー・相談会・体験会を実施し、更に保護者支援に力を入れる。

②地域社会との連携強化

地域貢献の一環として保育園を利用していない人への育児相談等を実施する。

0 歳児・・・毎月の親子体験会の実施

1 歳～5 歳児・・・各クラスで年 1 回開催している座談会に一般の保護者も加わり保育園での子ども達の様子を参考にしながら、日頃の子育ての話や悩みを皆に話す事により子育てのストレスを少なくする。

③事業運営の改善による経営基盤の安定

保育士を確保すると共に、来年の認定子ども園移

行に向けての準備を行う。和太鼓に続く特色作りを進める。

活動写真



熊本地震での支援に対してのお礼の写真



5 月 20 日 ひとり劇じゅんこさん来園



地震お見舞いのスイカ（富山より）



9 月 18 日 熊本西高での運動会



12 月 10 日 熊本病院での発表会

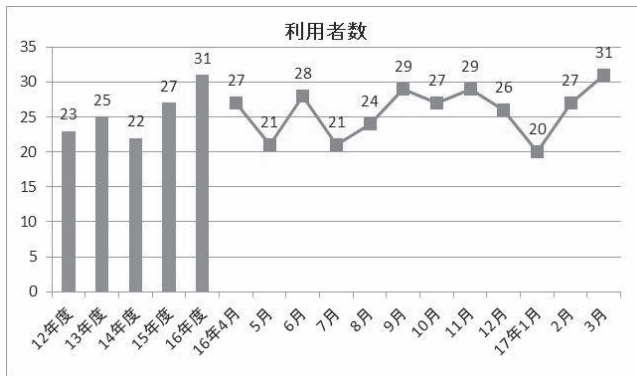
1. スタッフ構成 (2017年3月1日時点)

| | |
|-----------------------|-------------|
| 管理者 | 1名 |
| 主任 | 1名 |
| 支援者 (保育士、児童指導員、言語聴覚士) | 13名 (パート含む) |
| 調理員 (調理補助含む) | 2名 |
| 事務員 | 1名 |

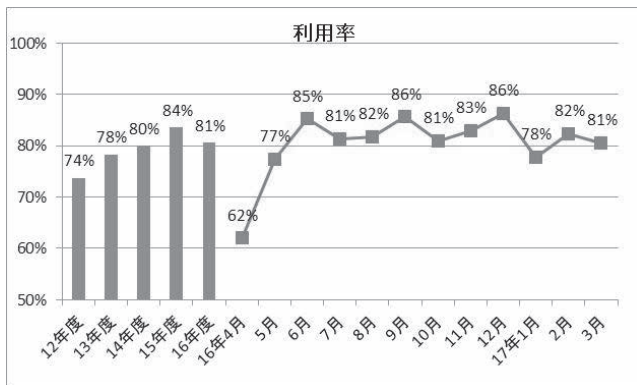
2. 今年度の活動

* 児童発達支援事業

(1) 利用者数



(2) 利用率



今年度はスタート直後に熊本地震が発生し、道路の寸断や利用児家庭の被災等により、通常の営業(開園)が困難となり、5月の利用者数及び4月の利用率が極端に低迷した。しかし、職員の多くが被災している中、子どもたちの障害の特性をふまえ、児童発達支援センターという地域における中核的役割を果たすために、本震(4月16日)の翌々日には開園し、短時間ながらも療育支援及び軽食の提供を行った。なお、数値は毎月1日(初日)時点のものであるため、年末年始の長期休暇明けである1月の利用

者数及び利用率が低くなっている。

* 保育所等訪問支援事業

訪問先別回数 (延べ)

| 年度 | 保育所 | 幼稚園 | 合計 |
|--------|------|-----|------|
| 2015年度 | 17回 | 0回 | 17回 |
| 2016年度 | 123回 | 1回 | 124回 |

保育所等訪問支援事業は2015年度からスタートした事業であり、初年度は保育所のみ17回の訪問実績であったが、2016年度は大幅なニーズの増加により約7倍の訪問回数となった。保育所の内訳は86%(106件)が済生会しらふじ保育園であり、これは保育園における配慮の必要な子どもたちの数の増加と法人内の連携強化の結果であると考えられる。

* 熊本市障害児等療育支援事業

実施件数 (延べ)

| | |
|----------|-----|
| 在宅支援訪問療育 | 25件 |
| 在宅支援外来療育 | 49件 |

熊本市の単独事業である本事業は訪問と外来に分かれており、どちらも「障害」が確定されていない方や診断を受けていない方等、福祉サービス利用に至っていない、支援や配慮の必要な子どもたちに対する地域支援事業である。今年度は外来が訪問の約2倍となっており、熊本市子ども発達支援センター「あいぱる」や区役所こども保健課で当園の紹介を受けて来所されるケースがほとんどであった。

(3) 事業概要

長年の懸案であった老朽化した園舎の建て替えが2015年10月に完了し、今年度は管理者の交代を含め、新たなステップに向けたスタートの年度であった。工期が3期に亘っていたために滞っていた各事業もほぼ通常通りに実施・展開することができ、特に児童発達支援センターが求められている地域支援(保育所等訪問事業、障害児等療育支援事業等)と地域連携の強化(カミングデイでの参加促進)に注力した。

また、職員の質の向上と標準化を目指し、全員によるテーマ別勉強会とケース検討を定例的に開催した。さらに、4月に発生した未曾有の熊本地震の際

には障害特性に配慮し、本震後は日を置かずに開園し、日常と変わらない環境の提供に最大限努めた。

① 質の高いサービスの向上

より個別ニーズへの対応と連携体制の確立を目指し、延べ 83 回の並行通園先への訪問を実施した。また、保護者支援の充実と満足度向上のため、個別面談（担任・リーダー・主任）を延べ 97 回実施するとともに積極的な要望把握に努めた。さらに、職員会議におけるミニ研修会（6 回）の開催、感覚統合（延べ 102 名）及び音楽療法（延べ 25 名）を実施し、専門療育からの知識・技術の学びを深めた。

② 地域社会・家族との連携強化

地域に根差した施設づくりを目指し、保護者及び地域の支援者向け勉強会を企画開催（6 回）、総数 310 名の参加を得た。また、「なでしこ☆カミングデー」では体験コーナーの新設、地域生産者からの出品により、地域に開かれた施設づくりに注力した。ボランティア受け入れ（実数 12 名）を積極的に行い、法人内保育園への訪問（延べ 29 回）や意見交換会も実施した。さらに、今年度よりしらふじ保育園からの協賛金を得て保護者及び支援者向けの勉強会を開催した。

| | | | |
|-------------|------------------|--------------------------------|------|
| 1 月 14 日 | 子どもたちの 将来について | 熊本市手を つなぐ育成 会：西恵美副 会長 | 28 名 |
|-------------|------------------|--------------------------------|------|

③ 経営基盤の安定

新たに医療連携体制加算Ⅳ（医療的ケアの実施）の取得、食事キャンセル料の徴収、開園日増等により発達支援給付費（収入）の大幅な増加が得られた。また、建て替え後のランニングコストの把握を行い、職員会議での職員への周知及び分析により電気・水道代等の経費の削減につながった。

3. 苦情解決

| 分類 | 内容 | 件数 |
|----|--------------------|----|
| ① | 虐待・放置・脅迫・詐取等に関わる事項 | |
| ② | ケアの内容に関わる事項 | 14 |
| ③ | 個人の嗜好・選択に関わる事項 | |
| ④ | 財産管理・遺言・遺産など | |
| ⑤ | 制度・施策・法律に関わる事項 | |
| ⑥ | 工賃支給・作業内容に関わる事項 | |
| ⑦ | その他 | 3 |

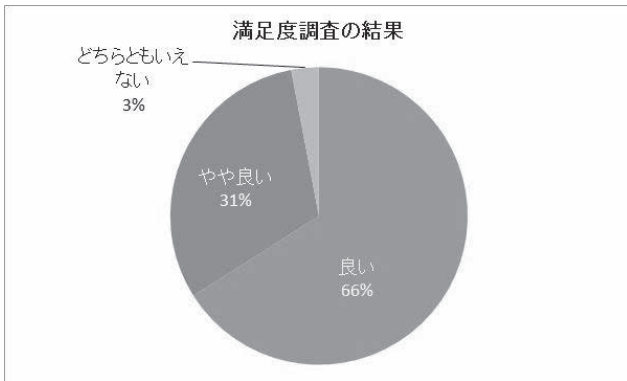
合計 17

済生会なでしこ園勉強会 2016 開催状況

| 期日 | 内容 | 講師 | 参加者数 |
|--------------|--|-----------------------------------|-------|
| 10 月 8 日 | ダウン症って どんな子 | 熊本大学教 育学部：菊池 哲平准教授 | 52 名 |
| 10 月 22 日 | 感覚統合の基 礎と問題とな る行動の理解 について | 山鹿リハビ リテーショ ン病院：満永 晴美 OT | 76 名 |
| 11 月 26 日 | 発達障害の「診 断」「支援」「療 育」「特別支援 教育」の意味 | はっとり心 療クリニック： 有菌祐子 医師 | 104 名 |

今年度は保護者からの要望を直接的な申し出以外にお便り帳などからも間接的に聴取するなどして積極的に把握し、17 件（苦情 4 件、要望 13 件）の解決を図った。ケア（支援）内容に関する要望が大部分を占めており、職員によるさらなる丁寧な説明や細かい配慮が今後も求められる。

4. 満足度調査の結果



10月にアンケート実施した保護者満足度調査では36名中80%（29名）の回答率であった。総合的評価では「満足（良い）」が66%、「どちらかといえれば満足（やや良い）」が31%、「どちらともいえない」が3%という結果で、前年度から「満足」が2ポイント増加した。しかし、各年度10名程度の卒園により、対象者の変動があるため、単純に数値的比較をするのではなく、項目別に結果を検証し、対応や改善につなげていくことが重要である。また、自由記述からは、特に地震後の開園等について園側の臨機応変的対応や日常的に職員が個別に保護者の話を聞く姿勢について高く評価して頂いていることも明らかとなった。

5. 今後の課題と展望

建て替えによる経費の増加に伴い、次年度もより経営的視点に立った事業展開と職員の意識化を重視する。また、持続可能な事業展開を目指して、「組織化」と「安定化」をキーワードに内部環境の変化への対応と2018年度報酬改定などの外部環境の変化にも注視しつつ、地域における障害児支援事業の中核的役割と使命を強く意識する。さらに、福祉サービス第三者評価受審の更新年度となるため、支援内容の検証と充実、客観化と可視化に力点をおき、さらなる支援の質の向上を目指す。

活動写真



きりん組 親子島原日帰り旅行



なでしこ☆カミングデイ



ぱんだ組秋のテラス遊び「風船ロケット」

1. スタッフ構成 (2017年3月1日時点)

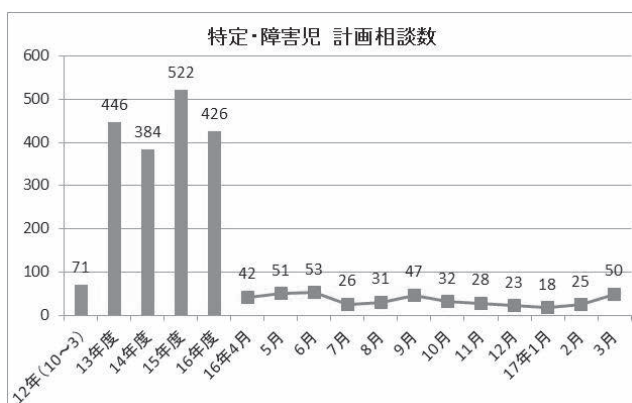
管理者 1名 (なでしこ園との兼務)

相談支援専門員 1名

事務員 1名 (なでしこ園との兼務)

2. 今年度の活動

(1) 障害児計画相談実績



(2) 事業実績

今年度は相談支援の質を重視し、個別性と利用児(者)中心の計画相談に力点をおき、マネジメント力の強化に努めた。また、アセスメントの充実を図るため、年間通して合同勉強会を4回、他障害児相談支援事業所との会議を3回開催するとともに、新規開設の通所サービス事業所16か所を訪問し、関係機関との連携強化を図った。

① 質の高いサービスの提供

個別面談を重視し、利用児中心の利用計画の作成にあたりとともに手順書の見直しによる新規契約者に対する丁寧な説明と情報提供を行った。また、課題の共有と相談援助技術の向上のため、市内3か所の相談支援事業所による合同会議を企画開催した。さらに、野中式アセスメントによる事例検討会議を開催し、**person-centered plan**への学びを深めた。

② 地域社会・家族との連携

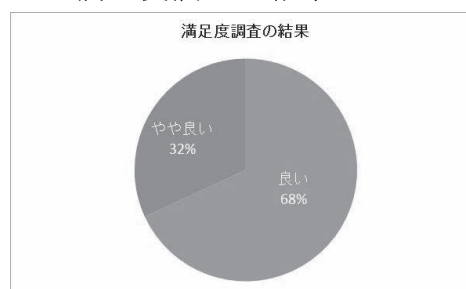
特に医療系サービス機関との連携強化を図るため、医療機関4か所への訪問及び支援者会議の開催による情報交換を行った。また、的確な情報提供に向け、新規事業所への訪問・逆訪問を通して地域における社会資源の把握に努めた。さらに、障害者自立支援協議会子ども部会に積極的に参加し、事例提供を行

う中で課題の共有と行政への提言を行った。

③ 経営基盤の安定

業務の効率化と省力化に向け、契約者毎の更新及びモニタリング一覧表の作成を行った。また、年間対応件数の偏りに伴う業務偏重の均一化に向け、月内の記録完結を実行し、年間計画相談目標件数400件に対し、総数418件の実績を得ることができた。

3. 満足度調査の結果



相談支援契約者のうち、熊本市内在住で契約後1年以内の保護者を対象に相談事業に対する満足度アンケート調査を行った。対象60名中41名の回答(68.3%)を得、総合的評価では、「満足(良い)」が68.3%、「まあまあ満足(まあまあ良い)」が31.7%であった。丁寧で迅速な対応に高い満足を得られている反面、面談回数の減少に少なからず不満があることが明らかになった。人的課題もあるが、今後は電話やメール連絡以外の対面面接を強化していく。さらに、4月に発生した熊本地震に際し、アンケートの自由記述から明らかになった、障害の特性による様々な課題や制度上の問題点については子ども部会等、支援者間で共有し、さらに地域社会の障害児に対する理解や啓発に繋げていきたい。

4. 今後の課題と展望

障害児通所支援の利用児数の増加に伴い、事業者指定が増えることが予想される。なでしこ園相談支援事業所としては障害児に特化した計画相談と相談支援専門員の基礎資格(看護師)からの専門的視点によるサービス等利用計画の作成にて差別化を図っている。しかし、マンパワー上の課題を含め、今後はさらに多様なニーズに応えうる組織体制を整備するため、法人内相談支援事業所との統合・一体化を視野に入れた具体的取り組みを展開したい。



済生会かがやきの利用者 松本了さんの作品

編集後記

済生会熊本福祉センター2016 年度年報をお届け致します。まずは完成できたことを大変嬉しく思います。所長、管理者をはじめ、皆で試行錯誤しながら作成しましたが、初めてのためうまく表現できず、読み辛い部分も多かったと思います。何卒ご了承頂ければ幸いです。

済生会熊本福祉センターの年報を作り、毎年の活動記録を後世に残していきたい。そういう想いを持って作成に取り掛かりました。私が着任したのは2016年1月、当センターでは多様な事業を展開し、毎年様々な活動をしているものの、過去の情報を得るのに大変苦労しました。経験の長い職員に話を聞く、広報誌のバックナンバーを探す、以前の会議等の資料に目を通す...などが必要となります。せっかく様々な取り組みを行っているのに、非常にもったいないと感じました。

取り組んだことだけでなく、過去の取り組みを数値化することも大切です。各事業所の利用者数、利用率、苦情解決、満足度調査を数値やグラフで示すことで、実績を振り返るとともに次年度の計画にも活用したいと考えました。まだまだ内容は至らない点ばかりですが、毎年発行を続けることで、より充実した年報を目指していきます。

事務局 熊谷誠

2016年度（平成28年度）

済生会熊本福祉センター年報

<http://sk-fukushi.jp/>

編集責任者 道端由美子（所長）

編集担当 熊谷 誠（事務局）